熊取町埋蔵文化財調査報告第55集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・ＸＸⅦ

平成２６年３月

熊 取 町 教 育 委 員 会

はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として43ヵ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施し、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成25年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したものです。今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成26年３月

熊取町教育委員会
教育長 西牧　研壯

例　　言

1．本書は、平成25年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化振興グループが実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。

2．調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化振興グループ考古学技師前川淳を担当者として、平成25年５月15日に着手し、平成26年３月31日に終了した。
調査では、掘削精査した調査区を写真撮影し、調査区位置図（平面図）、調査区壁面図を作成し記録した。

3．本書は、平成25年５月15日から平成25年12月28日までに実施した発掘調査を掲載する。

4．本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。

5．本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。

6．本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査補助員の参加を得た。
森田享子、野田由美

7．本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化振興グループ考古学技師前川淳が行った。

目　　次

第１章　はじめに …… 1

第２章　地理的環境と周知の遺跡

第１節　地理的環境 …… 1

第２節　歴史的環境 …… 1

第３節　周知の遺跡 …… 3

第３章　調査成果の概要

第１節　野田遺跡13-3区の調査 …… 5

第２節　野田遺跡13-6区の調査 …… 6

第３節　口無池遺跡13-3区の調査 …… 7

第４章　まとめ …… 8

第１章　はじめに

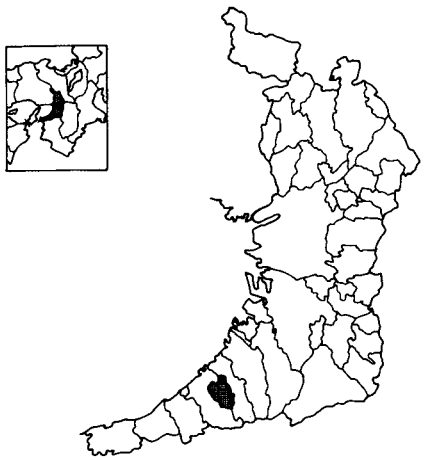
平成25年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は27件（平成25年12月28日現在）である。

本書では平成25年度12月28日までに国庫補助事業として実施した口無池遺跡をはじめとする町内遺跡の調査３件の成果について報告する。

遺　跡　名	所　　在　　地	申請面積	調査年月日
野田遺跡13-3区	紺屋２丁目2091-14	137.93㎡	平成25年 9月18日
野田遺跡13-6区	紺屋２丁目2091-5、2091-16	138.84㎡	平成25年11月11日
口無池遺跡13-3区	紺屋１丁目2061-6、2061-7	111.90㎡	平成25年11月28日

第２章　地理的環境と周知の遺跡

第１節　地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと、南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.23k㎡を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の３分の２を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積台地が形成されている。町域に水源をもつ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の４水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降水量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの潅漑用の溜め池を目にすることができる。

第２節　歴史的環境

遺跡数は平成 25 年 12 月現在で 43 ヵ所である。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器やそれに後続する時期の石鏃が検出されている。

明確に弥生時代とする遺跡は発見されていない。JR 熊取駅のある大久保では、駅前整備事業に伴って昭和 61 年から平成２年の間に発掘調査を実施し、畿内第Ⅴ様式を示す土器等を検出して大久保遺跡群として周知されたが、その土器群は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されてい

るが、既に開発で消滅してしまって詳細は伝わらない。宅地となってからの付近の調査では埋蔵文化財は一切確認できていない。

飛鳥時代については、平成 10 年度の久保城跡 98-1 区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥第Ⅴ様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡（現：野田遺跡）87-1 区の調査で建物４棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成 10 年度に久保で飛鳥時代から奈良時代の土器群を伴う遺構群を検出し、平成 11 年７月熊取町七山（七山東遺跡）で西暦 750 年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成 13 年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成８年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。主だったところでは野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡、大久保の大久保Ｅ遺跡、小谷の久保Ａ遺跡などで瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成 13 年度に幅 10m程の溝跡他を発見した小垣内西遺跡は地名に因む集落跡の可能性もある。平成 15 年度にはその北東 200m付近で中世の井戸跡等を有する集落跡の小垣内中遺跡を発見している。中世末期の様相については、和田にある重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の 16 世紀の土師器皿や瓦片が出土している。

江戸時代の遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家書院を中心とする降井家屋敷跡がある。平成 13 年度の中家住宅東側隣接地（中家住宅周辺遺跡）での調査では、３㎡程度の１箇所のﾄﾚﾝﾁ内から 5,500 破片の土師器皿と、巴文軒丸瓦片が出土している。

第３節　周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

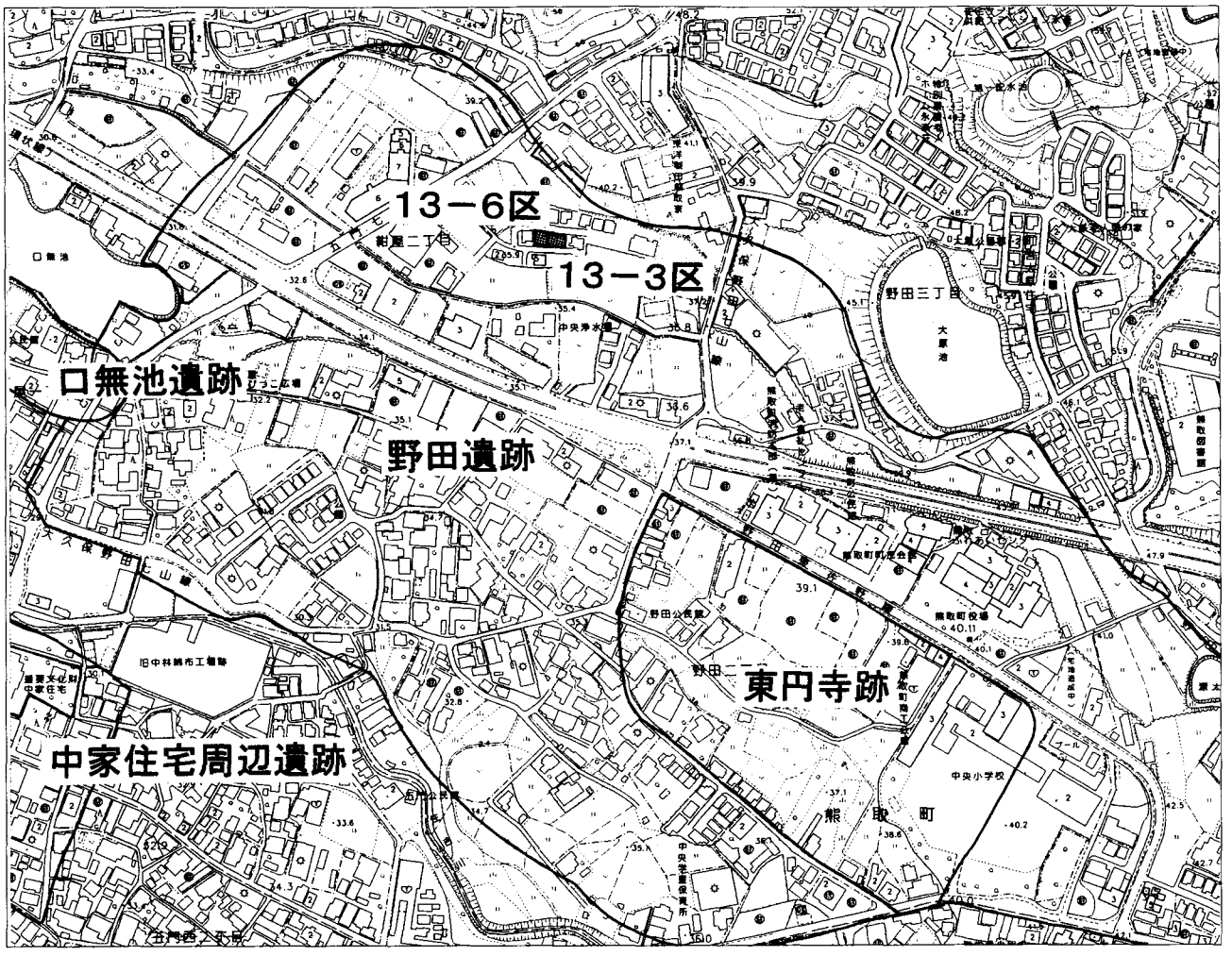
	遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1	来迎寺遺跡	集落跡	鎌倉	宅地	丘陵腹	3,100㎡	15～16世紀の陶磁器・土師器・瓦等検出
2	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	62,300㎡	
3	大宮遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	5,000㎡	
4	東円寺跡	寺院跡	平安～室町	宅地	平地	48,000㎡	瓦・土器多数出土。寺院の形態は不明
5	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	61,800㎡	
6	成合寺遺跡	墓地	室町	畑地	丘陵腹	69,000㎡	14世紀代の600基以上の土壙墓群等検出
7	高蔵寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34,800㎡	土塁・堀切等の遺構を確認する
8	土丸・雨山城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	—	月見ノ亭・馬場・千畳敷の地名が残る
9	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	2,300㎡	土師器片等が検出される
10	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,900㎡	現在消滅
11	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,500㎡	現在消滅
12	大浦中世墓地遺跡	墓地	室町	墓地	平地	18,400㎡	享徳四年(1445)銘の五輪塔地輪等出土
13	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	86,300㎡	飛鳥期の溝から須恵器・土師器、他瓦器多い
14	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	6,800㎡	
15	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	51,400㎡	
16	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	6,300㎡	五門・紺屋共同墓地
17	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	55,000㎡	
18	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	7,000㎡	毘沙門堂跡、現在消滅
19	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	5,100㎡	大森神社神宮寺
20	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72,600㎡	
21	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	32,000㎡	
22	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	28,000㎡	
23	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	12,000㎡	屋敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
24	大久保Ａ遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8,100㎡	
25	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	57,000㎡	
26	大久保Ｂ遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	47,800㎡	弥生末～古墳初期の遺物
27	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	22,400㎡	奈良～平安期の河川跡検出
28	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	129,600㎡	
29	大久保Ｃ遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	4,500㎡	
30	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	1,000㎡	天正年間(1573～92)の雑賀衆徒の城跡
31	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	11,200㎡	平安末～鎌倉初期の遺構、遺物
32	大久保Ｄ遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	9,200㎡	
33	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	4,900㎡	13～14世紀の瓦器等検出
34	久保Ａ遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	4,400㎡	建物跡、８～14世紀の土器
35	大久保Ｅ遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	2,900㎡	弥生末～古墳初期の遺物多数
36	久保Ｂ遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	5,000㎡	13～14世紀の瓦器等検出
37	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	21,300㎡	近世の陶磁器多数
38	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～室町	宅地	平地	60,000㎡	13～14世紀の瓦器等検出
39	七山東遺跡	散布地	奈良～室町	田	平地	80,000㎡	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
40	小垣内西遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,600㎡	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
41	大久保Ｆ遺跡	集落跡	弥生～室町	宅地	平地	1,436㎡	石鏃・平安頃の建物等検出
42	野田遺跡	集落跡	縄文～江戸	宅地	平地	310,000㎡	縄文石器・古代～近世の集落
43	小垣内中遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,500㎡	中世の集落

熊取町遺跡分布図

泉佐野市
貝塚市
千石堀城跡
七山東遺跡
正法寺跡
白地谷遺跡
大久保D遺跡
大谷池遺跡
大久保B遺跡
祭礼御旅所跡
大久保E遺跡
紺屋遺跡
大久保F遺跡
口無池遺跡
野田遺跡
降井家屋敷跡
降井家書院跡
中家住宅
大久保C遺跡
東円寺跡
小垣内遺跡
中家住宅周辺遺跡
小垣内中遺跡
金剛法寺跡
小垣内西遺跡
大久保A遺跡
五門北古墳
大浦遺跡
久保城跡
久保A遺跡
大宮遺跡
五門遺跡
五門古墳
大浦中世墓地遺跡
高蔵寺城跡
久保B遺跡
城ノ下遺跡
鳥羽殿城跡
朝代北遺跡
来迎寺本堂
来迎寺遺跡
山ノ下城跡
墓ノ谷遺跡
花成寺跡
下蕨田遺跡
池ノ谷遺跡
成合寺遺跡
土丸・雨山城跡
国史跡 日根荘遺跡
土丸・雨山城跡
0
2km

第３章　調査成果の概要

第１節　野田遺跡13-3区の調査



野田遺跡について

野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約260,000㎡にも及ぶ集落遺跡である。そのうち熊取町役場前の45,000㎡程の地域については、平安末期以降の寺院の瓦群やその他の埋蔵文化財が非常に多く出土し、寺院を示すものと考えられる小字名が残されている区域であることから、当初から寺院跡の遺跡「東円寺跡」としていたが、この区域よりも外側における発掘調査出土例の増加とともに、「東円寺跡」の範囲は飛躍的に拡大して、野田地域をほぼ囲む程の町内最大の範囲を有する遺跡になってしまっていた。さらに、奈良期以前の埋蔵文化財が確認される例も増え、平安末期に創建されたとされる寺院遺跡の性格を超える様相であることからも、平成15年11月に本来の「東円寺跡」部分と、それより広範な集落遺跡「野田遺跡」に分割したのである。

野田遺跡では、町立中央小学校の調査で縄文時代早期と推定される尖頭器が出土した他、現在の野田の住宅街の調査で、奈良期の掘立柱建物群や須恵器などが検出され、野田遺跡の集落が営まれた時期は少なくとも奈良時代まで遡ることが推測されている。また調査の成果から、集落は中世初期頃にもっともよく繁栄していたことも推測される。発掘調査の成果からは、集落が室町時代の中期頃より減じて農地化したことも推測されている。

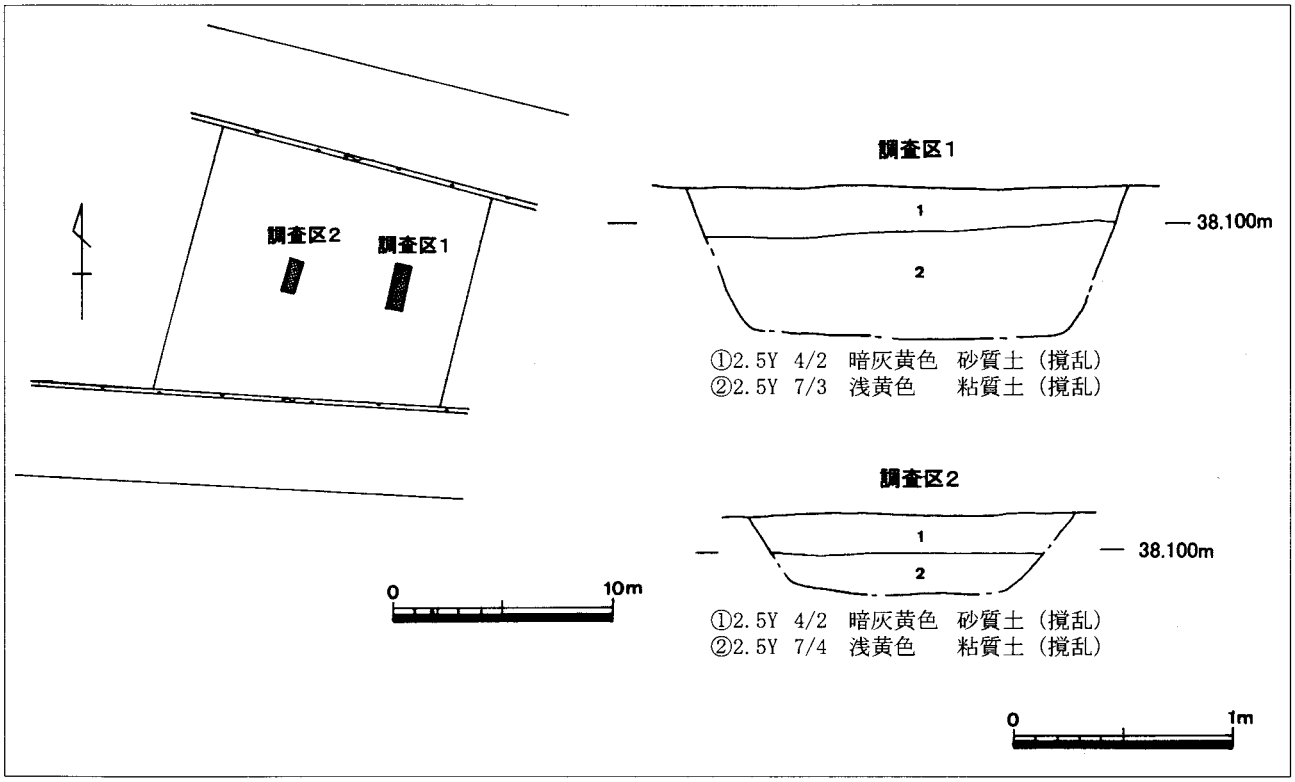
野田遺跡13-3区の調査

調 査 地　紺屋２丁目2091-14

調査期間　平成25年９月18日

位置と環境

調査地点は、野田遺跡の北西部に位置し、大阪外環状線の北側にあり、熊取町役場付近の平地に向かって傾斜する桜が丘等の広い丘陵の裾部への緩斜面途中に立地する。この丘陵腹は、戦後の航空写真を見ると雑木林と畑地しか認めることができないが、昭和 40 年代後半頃より比較的小規模な住宅地の開発が何度も行われ、現在は住宅が多く建つ景観に変わっている。届出地はそのような住宅街の間に営まれていた畑地であったと思われるが、近年は平坦な雑草地になっていたようである。野田遺跡は広大な面積を呈するが、大阪外環状線より北側の地ではこれまで中世以前の遺構・遺物を検出することは稀であり、届出地の周辺において近年も数回の発掘確認調査を行っているが成果を上げていない。



調査の内容と結果

２つの調査区を設定して、機械掘削による調査を実施した。両調査区とも同様の地層を示し、地表面から -0.7m程掘削しても、近年の造成の際の客土が見られるのみで、包含層や地山を検出することはなく、それらはまだ下位にある可能性がある。この場所は元来もっと低い位置に生活面があり、現代において大幅な盛土がなされているものと考えられる。

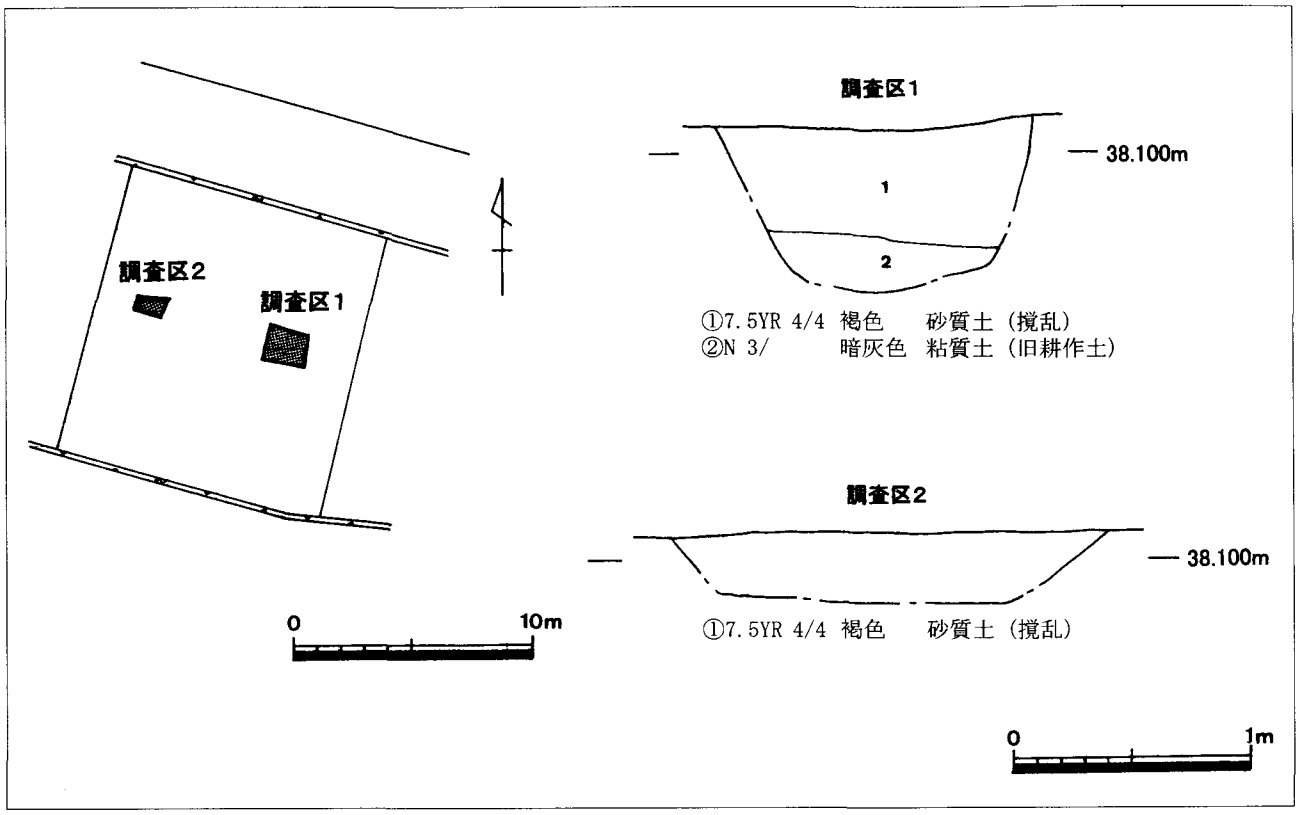
第２節　野田遺跡13-6区の調査

調 査 地　紺屋２丁目 2091-５、2091-16

調査期間　平成 25 年 11 月 11 日

位置と環境

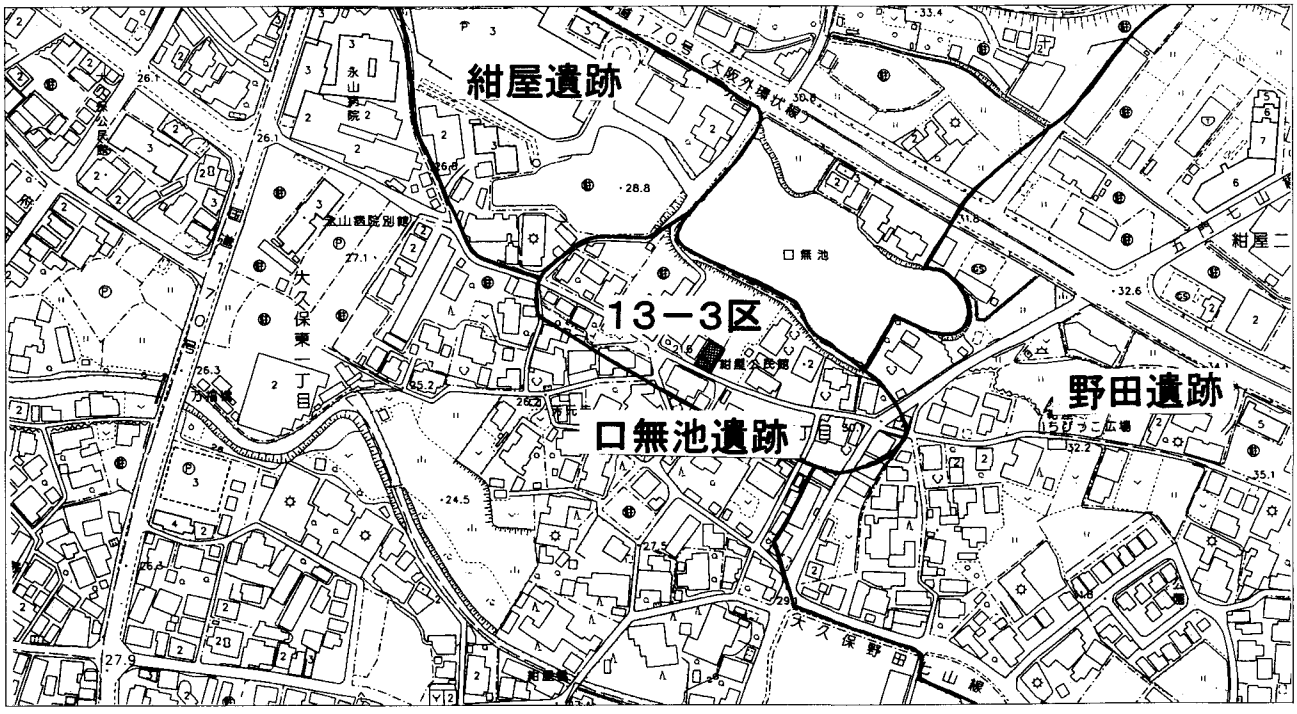
第１節の野田遺跡 13-3 区のすぐ西隣の場所において個人専用住宅の建設が行われることとなり、事前の発掘確認調査を実施した。



調査の内容と結果

13-3区と同様、２つの調査区を設定して、機械掘削による調査を実施した。両調査区とも同様の地層を示し、地表面から-0.7m程掘削しても、近年の造成の際の客土が見られるのみで、包含層や地山を検出することはなかった。おそらく現地表面より-1.5m以下まで掘削しないと地山を検出しないものと思われる。

第３節　口無池遺跡13-3区の調査



口無池遺跡について

口無池は 16 世紀初頭頃に造られた溜め池と考えられており、この池の南側に広がる紺屋の集落の地下には中世の遺物を含む土層が広く分布し、平成８年度には瓦質の羽釜を含む溝跡が検出されるなどしたことから、紺屋の集落は 16 世紀以降から江戸時代を通して徐々に形成されたものと考えられる。

口無池遺跡13-3区の調査

調 査 地　紺屋１丁目2061-6、2061-7

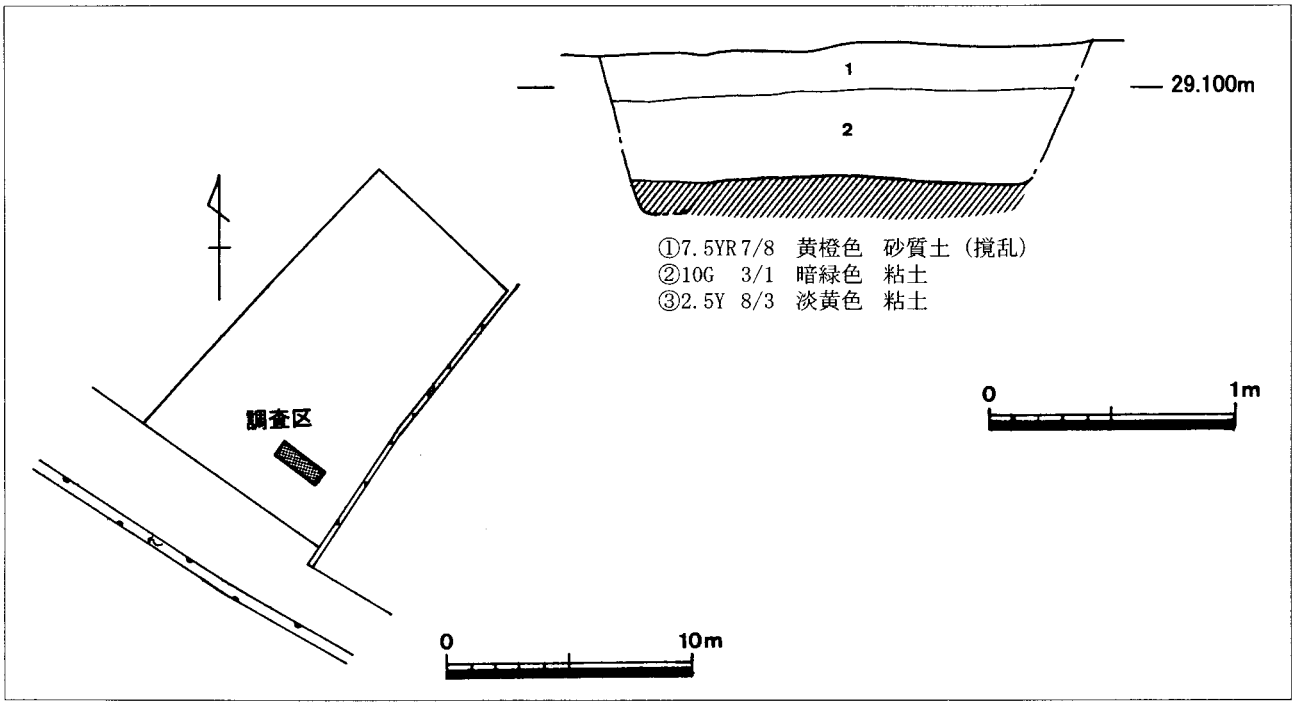
調査期間　平成25年11月28日

位置と環境

調査地点は遺跡の中央部に位置し、この付近は目立った地形の起伏がなく平坦で、農家の比較的大きな古い建物が軒を並べている。

調査の内容と結果

調査は重機で地表面から -0.6mほどを掘削したが、いわゆる地山面を検出するには至らず、その間は客土による盛土層のみであった。当地点は現在見るような平坦な場所ではなく、元来は低い地形であり、盛土を行って造成し集落を形成したものと見られる。



第４章　まとめ

野田遺跡

今回の大阪外環状線の北側における２つの調査地点(13-3区、13-6区)は、従来の調査結果と同様、埋蔵文化財の検出はなかった。ただし、調査は個人住宅の建設に伴うものであるため、深度の浅い掘削にとどめており、その範囲内では大幅な盛土のみが確認され、本来存在しているであろう生活面や包含層は検出できなかった。それらは深部に残されている可能性がある。従ってこの付近の丘陵腹は、かつては今よりもかなり低い形状を呈してい

たものと考えられる。今後も個別の工事に対しては、注意深く調査していきたい。

口無池遺跡

現在の口無池遺跡は、町道紺屋大久保線を中心として南北両側に紺屋地区の民家が密集して概ね平坦な集落地を形成しているが、これまでの調査結果から、中世以前は現在の地表面よりもかなり低い高さに耕作地が広がっていたと考えられる。低い水田地帯を大幅な盛土を行って造成したものであり、近世に行われた所、近代以降に重機を使って造成した場所が存在している。しかし、調査事例が比較的少ないために詳細が不明な場所が多く、引き続き注意深く調査していく必要がある。

野田遺跡13－3区

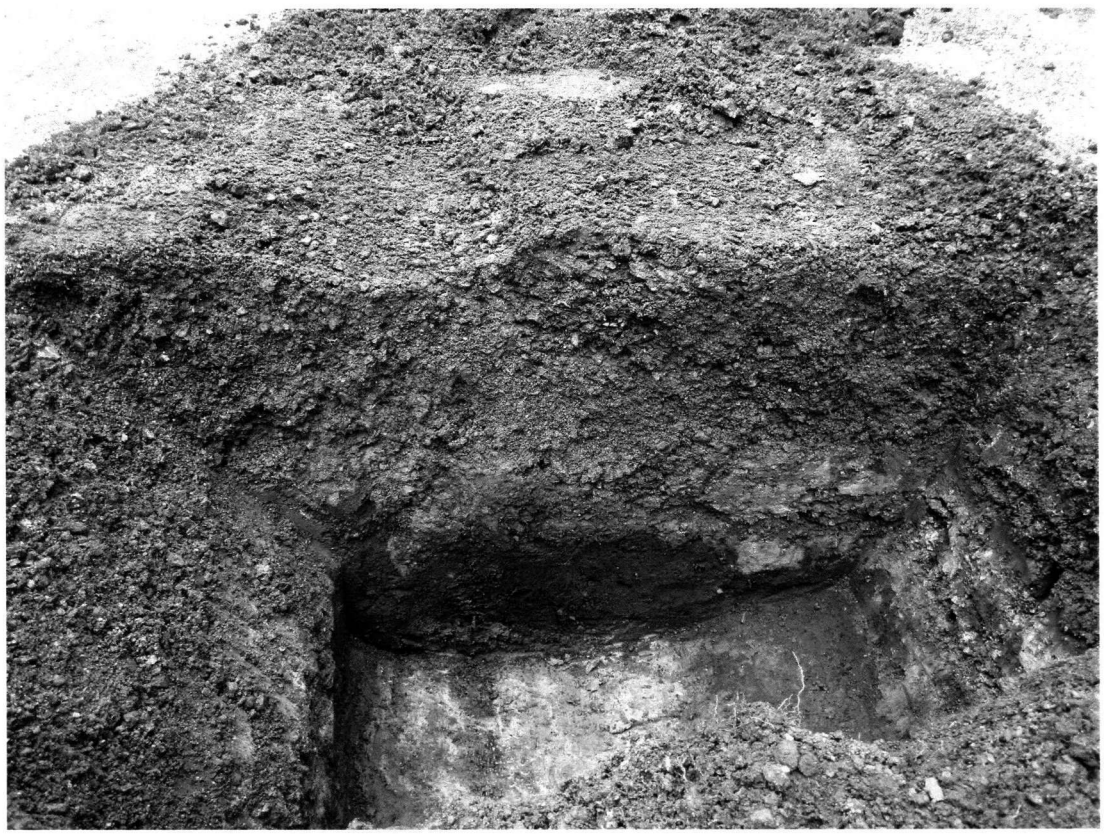
調査区1を北から見る

調査区1　西壁

写真図版2

野田遺跡13－6区

調査区１を東から見る



調査区１南壁

口無池遺跡 13-3 区

調査区を東から見る

調査区北壁

報 告 書 抄 録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書
巻次	ＸＸⅦ
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第55集
編著者名	前川　淳
編集機関	熊取町教育委員会
所在地	〒590-0495　大阪府泉南郡熊取町野田一丁目１番１号
発行年月日	西暦　2014年 3月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
のだいせき 野田遺跡 13－３区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうこんや 熊取町紺屋	27361	42	34° 24′ 01″	135°21′ 19″	20130918	3.5	個人専用 住宅建設
のだいせき 野田遺跡 13－６区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうこんや 熊取町紺屋	27361	42	34° 24′ 01″	135°21′ 19″	20131111	3.0	個人専用 住宅建設
くちなしいけいせき 口無池遺跡 13－３区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうこんや 熊取町紺屋	27361	31	34° 23′ 59″	135°21′ 03″	20131128	3.0	個人専用 住宅建設

所収遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野田遺跡13-3区	集落跡	縄文～江戸	なし	なし	なし
野田遺跡13-6区	集落跡	縄文～江戸	なし	なし	なし
口無池遺跡13-3区	散布地	平安～江戸	なし	なし	なし

熊取町埋蔵文化財調査報告　第55集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXⅦ

発行日　平成26年3月

発行・編集　熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目23番38号

印刷　（有）山村印刷所
大阪府貝塚市近木1483－8